

堤剛委員意見発表資料

(2) 文化芸術振興のための基本的視点について

国が基本方針として文化芸術の大事さを認め、文化庁が「文化力」という合言葉のもとに様々な形で取り組み始めたことを広く一般に認識せしめたのは本当に大きな第一歩だと思います。唯文化にしる芸術にしる一日で成るものではなく、それが人材育成であり、施設等の充実であっても。お金がかかりますし時間もかかるものです。それ故コンスタントにそれを続け、充実させていくのが非常に大事だと思います。本質的に文化とか芸術は質を問われ、内容の充実度を問われるものでありますが、それと同時に、極く普通のものとして人々の生活の中に溶け込んでいるのが理想なのではないでしょうか。それにより本当の意味での精神的豊かさが生まれます。

文化とか芸術は—これは自明の理でありますが一スッパリと数字で割り切れるものではないし、生活の中で特に目立つものではない筈なのです。それはあくまで物事が自然に進んで行くという意味においても、(1-2)に関してはとても難しい課題だと言わざるを得ません。というのは先ずは文化、芸術が何処かの地に根付き、人々のものになっていくためには相当の時間とエネルギーが必要だからです。根本となるアイディアは20世紀を代表するロシア生まれのピアニスト、V. ホロヴィッツが言っていたように、人々が精神的に満足しながら生活していく為には「昨日に較べて今日の方がより優れ豊かになっている」と感じられる事でしょう。

エヴィデンスを収集するためには先ずそれを担当される方が本当に音楽や絵画が好きであり、相当な知識を持っていることが必要とされます。もう一つのやり方はアンケートですが、それは全てが **relative** (相対的なもの) になってしまうので、絶対的なものを求める為にはどの位効果的であるか疑問視する方が多いと思います。地道に対応し、今は物事が大きくは動かない時代ですから、その **pro** と **con** を先ず始めにじっくりと皆で意見を出し合うのが良いのではないのでしょうか。

(2-1) に関して言えば国としてもこれ等の問題と真剣に取り組み始めたという点で大きな一歩を踏み出した訳です。これは現在財政面でとても難しい場面に遭遇しているのにも関わらず、これからの若い芸術家達は活動を続けて行かれる訳で、それが与えるインパクトは相当強いものです。(2-2) に関しては先ず人々がその **community** の中でお互いに **communicate** し合う事が大事になってきますし、教育機関との連携も大切な事です。

自分が最善だと信じている事を力強く推し進めることが必須条件となるでしょうし、私は折角日本人とし芸術文化活動をするのですから、そこに自ずと日本の伝統に根ざしたものがあつた事がアイデンティティーの確立という面でもとても大事だとおもいます。